

## ウェブ上での大村市民美術館の展開はどうか

村崎 浩史議員

Q 大村市内は若年世代からシニア世代まで、絵画、彫刻、写真、書道、陶芸などで活躍されている方が多い。地域の文化芸術こそ、まちづくりの核になれる。美術館というハコモノはすぐには難しいので、まずは、ウェブ上大村市内で活躍しているアーティストの作品を集積させた大村市民美術館構想を検討してはどうか。

A 市民が作品を鑑賞、発表できる場は市美術館や市民ギャラリーなどがあるが、展示期間等が限定され、発表したい時期に展示することが容易でない状況もある。より多くの作品発表の場を求める声も承知しており、その声に応える一つの手法として興味深い。インターネットの特性を生かす内容や運営方法等について研究したい。

## 学校の暑さ対策について

村上 信行議員

Q 市内小中学生の母親や女性教師より暑さ対策が要望さ

れ、小中学校のすべての普通教室に4基の扇風機が設置された。熱中症等の改善の状況はどうか。

A 暑さで体調不良になり保健室に来室した児童生徒数は103名であり、昨年に比べ43名減った。今年は全国的に特に熱中症が多かったことからすると非常に効果があったと思っている。そのほか、学習に集中できるようになったという声や夏休みにも教室を活用して自主学習しているなど、児童生徒、教員等からも好評である。

## 教育委員会のあり方、学校での近代歴史教育

中瀬 昭隆議員

Q 大津市のいじめに端を発した教育委員会のあり方が大きな話題。会議は政令指定都市、都道府県で月2回強しか開かれず、委員提案の議題も約1割。形骸化が著しい。あまりにも多岐にわたる業務を学校教育中心に組織改革が必要ではないか。また近代の歴史教育の大事さを痛感する出来事が起きている。教科書の選定に問題はないか。

A 平成23年度は教育委員会定例会や学校行事等、教育委員1人年36回出席しており、その際の所感等についても報告をいただいている。教育委員の方々は非常に熱心であり、市長とも意見交換を行うなど連携している。教科書の選定は市民、保護者、教師への公開、調査員、審議委員会を経て教育委員会が採択する。公平、厳正に行っている。

## 3学期制と土曜授業の再開

朝長 英美議員

Q 本市は転入転出の多い土地柄から2学期制では戸惑うことが多いと思われる。全国的に見ても3学期制に戻す傾向であるが本市はどうか。また、土曜授業を再開している自治体が多い中、低学年の負担を考えると土曜授業再開が必要ではないかと思うが、本市でも再開可能か。

A 3学期制との比較ではなく、2学期制を成功させるための施策に取り組み、その成果はあったと捉えている。土曜授業については、国の指導により保護者等との触れ合いを主体としたものになっており、学校運営協議会

等が主体となって行われているのが実態である。研究の必要があるが、当面は現行で進めたい。

## 小中学校の学力向上の問題について

朝長 英美議員

Q 全国学力調査の結果が発表されて本市は全国平均より小学校においては下回っているが、本市の学力向上への取り組みはどうなっているか。また、他市では無料学習塾を開設して所得格差が学力格差につながることをなくす対策として行われているが、「教育支援事業」として本市でも取り組みを考えられないか。

A 生活環境や学習環境の改善により学力は向上するといふ仮説を立て、力を入れており、これにより心の伴った学力を培うことを目指している。外部人材の活用については、放課後子ども教室などで取り組んでいるが、今後、全体的にどのように取り組んでいくか研究が必要である。